

ごあいさつ

現在世界中で起こっていることを、私たちはどのように考えたらいいのでしょうか。新型コロナウイルス感染の世界的拡大とロシアとウクライナの戦争という大きく、痛ましい出来事は、私たちの日々の生活を根本的に変えてしまうものでした。そしてそれは今も終息を迎えているとは言いがたいものです。ウィルス感染も世界を巻き添えにする戦争も、私たちは歴史から学んで来たはずなのに、どうしてまた同じことを繰り返すのでしょうか。無力感に苛まれるのですが、それでも日々の暮らしはやってくるし、悲観的にばかりになっている訳にも参りません。

世界がこんなにも激しく変容を遂げている今、アートは何を行えばいいのか、アートにできることは何なのか、そもそも現代にアートは可能なのだろうか。少なくともそう問うことぐらいは、今の私たちにはできそうです。そのように考えて、私たち大阪大学大学院人文学研究科と総合学術博物館が共同で、「中之島に鼯を放つ——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」を始めて行こうと思います。

「中之島に鼯を放つ」といういささが穿った題目を持つこのプログラムですが、いわゆる大阪市を中心部にある「中之島」だけでの展開を考えているわけではありません。確かに、昨年2021年は大阪大学が創設して90周年を迎える節目の年であり、その発祥の地である中之島にある「大阪大学中之島センター」を改修し、芸術に関する研究教育の拠点を組織しようとしています。このプログラムでは、その中之島で活発にアート人材の育成を行うことを目指していますが、「中之島」はあの中之島だけを指すのではなく、ここにも、あそこにも、また遠くヨーロッパの東側にも、あるいは私たちの心の中にもある、生まれ出ずる場所、こう言ってよければ、何か自分たちの拠り所となる場所、どうしても捨てることのできない場所のことでしょう。

鼯(いたち)とはよく知られている、あの神出鬼没にして、いささか好戦的、異臭を放って敵をひるませ、かと思えば逃げ足も速く、夜行性でもあって、都市農村の区別なく出没し、全国でも大阪はもっとも多くの鼯が潜むとの、まことしやかな噂も耳にします。そんな鼯は、しかしながら、この時代の私たちのアートを諭えるのにまたとない生き物のように思われます。私たち自身が鼯に身をやつし、鼯こそがアートだと一斉に街中に放擲し、また逆に鼯に翻弄されて、そんな鼯に我が身を預けていく。現代のアートとはまるで都市の鼯のようです。しかし、そうやって鼯とともにあることは、このグローバル化の終わりの時代を誠実に生き抜いて行くための、一つの知恵の証のようにも感じられます。

この1年間、そんな鼯とともに、誰にでもある「中之島」で、どのような鼯を演じることができるのか、楽しみにしています。

大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学総合学術博物館
永田 靖

開催概要

本プログラムは、大阪大学大学院人文学研究科と大阪大学総合学術博物館が共同し推進するアート人材育成プログラムです。今日のアート人材には、多様な芸術ジャンルに精通し、現代文化の複雑な諸課題に柔軟に対応できる実践力が求められています。このプログラムでは、学際性に富み、アーティストとの交渉能力を備え、地域社会とのファシリテーション力を持ち、アート創造のプロセスに関わることのできる能力を持つ人材を育成します。

統括セッションと4つのリサーチ・フレームを設定し、縦横に交差しつつ学びながら、総合的なアート実践能力を育成します。現在様々な分野で活躍する、アーティスト、アートディレクター、研究者等と受講生とが交流を深め、ネットワークを構築し、アートによる多面的な価値の創出を目指します。

本プログラムは、大阪大学大学院人文学研究科と大阪大学総合学術博物館が共同で主催し、開講いたします。また本プログラムは令和4年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」による助成を受けております。本プログラムは、あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール、大阪中之島美術館、浄るりシアター、公益財団法人 吹田市文化振興事業団(メイシアター)、豊中市都市活力部魅力文化創造課、兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター、公益財団法人 箕面市メイプル文化財団など近隣の芸術諸機関の協力を得て行います。

連携機関アドバイザー

石橋 梨沙	豊中市都市活力部魅力文化創造課
菅谷 富夫	大阪中之島美術館
新倉奈々子	兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)
古矢 直樹	公益財団法人 吹田市文化振興事業団(メイシアター)
松田 正弘	浄るりシアター
宮地 泰史	あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
和田 大資	公益財団法人 箕面市メイプル文化財団

事業担当者

永田 靖	大阪大学大学院人文学研究科 大阪大学総合学術博物館(事業推進者)
伊東 信宏	大阪大学大学院人文学研究科(事業推進者)
渡辺 浩司	大阪大学大学院人文学研究科(事務局)
橋爪 節也	大阪大学総合学術博物館 大阪大学大学院人文学研究科
岡田 裕成	大阪大学大学院人文学研究科
高安 啓介	大阪大学大学院人文学研究科
古後奈緒子	大阪大学大学院人文学研究科
鈴木 聖子	大阪大学大学院人文学研究科
伊藤 謙	大阪大学総合学術博物館
横田 洋	大阪大学総合学術博物館 大阪大学大学院人文学研究科
山崎 達哉	大阪大学大学院人文学研究科(事務局)
鄭 実香	大阪大学大学院人文学研究科(事務局)

デザイン

濱村 和恵

年間予定表

予定日程	フェーズ	プログラム名	会場
2022年 7月23日(土)	Ⅲ	〈中之島に鼯を放つ〉 オープニング・セミナー	大阪大学豊中キャンパス
2022年 7月~2月	Ⅱ	日常のポイエティーク	町工場アートの可能性を探る 大阪大学豊中キャンパスほか
2022年 7月31日(日)	Ⅱ	場所のナラティブ	都市のアルケオロジー 大阪大学豊中キャンパス
2022年 8月 6日(土)	Ⅱ	場所のナラティブ	都市のアルケオロジー 大阪大学豊中キャンパス
2022年 8月20日(土)	Ⅱ	場所のナラティブ	都市のアルケオロジー 大阪大学豊中キャンパス
2022年 9月 3日(土)	Ⅱ	場所のナラティブ	都市のアルケオロジー 大阪大学豊中キャンパス
2022年 9月10日(土)	Ⅱ	場所のナラティブ	都市のアルケオロジー 乗船ツアー(大阪市内)
2022年10月 5日(水)~ 10月 7日(金)	Ⅱ	場所のナラティブ	都市のアルケオロジー 吹田市文化会館 メイシアター
2022年10月 8日(土)	Ⅱ	場所のナラティブ	都市のアルケオロジー 乗船ツアー(大阪市内)
2022年10月15日(土)	Ⅱ	アートとその分身	人間/人形の間 中之島図書館3階 多目的スペース2
2022年10月15日(土)	Ⅱ	アートとその分身	人間/人形の間 中之島図書館3階 多目的スペース2
2022年10月23日(日)	Ⅱ	アートとその分身	人間/人形の間 浄るりシアター
2022年11月 5日(土)	Ⅱ	アートとその分身	人間/人形の間 大阪大学豊中キャンパス
2022年11月 6日(日) or 13日(日)(調整中)	Ⅱ	臨床のアート	walking practice 同じ景色をみよう 大阪大学豊中キャンパス
2022年11月19日(土)	Ⅱ	アートとその分身	人間/人形の間 大阪大学豊中キャンパス
2022年11月23日(水祝)	Ⅱ	アートとその分身	人間/人形の間 大阪大学豊中キャンパス
2022年11月26日(土)	Ⅲ	アート・リング~アートの エコシステムへのいざない~ The Art Ring - Invitation to the Ecosystem of Art -	オンライン
2022年11月27日(日)	Ⅱ	臨床のアート	walking practice 同じ景色をみよう 大阪大学豊中キャンパス
2022年12月 3日(土)	Ⅱ	アートとその分身	人間/人形の間 社会福祉法人日本ライトハウス 情報文化センター
2022年12月 4日(日)	Ⅱ	臨床のアート	walking practice 同じ景色をみよう 大阪城公園
2022年12月10日(土)	Ⅱ	アートとその分身	人間/人形の間 大阪大学豊中キャンパス
2022年12月17日(土)	Ⅱ	臨床のアート	walking practice 同じ景色をみよう 大阪市内
2022年12月24日(土)	Ⅱ	臨床のアート	walking practice 同じ景色をみよう 大阪市内
2023年 1月30日(月)~ 3月 4日(土)	Ⅱ	臨床のアート	walking practice 同じ景色をみよう 大阪大学総合学術博物館
2023年 3月 4日(土)	Ⅲ	〈中之島に鼯を放つ〉 クローージング・シンポジウム	大阪大学豊中キャンパス

※プログラムの日程・内容については、変更、オンライン実施、もしくは中止になる可能性があります。



お問い合わせ

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5
アート人材育成プログラム事務局
tyamazaki@let.osaka-u.ac.jp
お問い合わせフォーム: <https://nakanoshima-itachi.org/contact>



中之島に鼯を放つ

大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学総合学術博物館主催
「中之島に鼯を放つ——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」

主催:大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学総合学術博物館
連携:あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、大阪中之島美術館、浄るりシアター、
公益財団法人 吹田市文化振興事業団(メイシアター)、豊中市都市活力部魅力文化創造課、
兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)、公益財団法人 箕面市メイプル文化財団
令和4年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」

統括セッション

オープニング・セミナー

開催日：2022年7月23日(土)
 場所：大阪大学豊中キャンパス
 講師：永田靖(大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学総合学術博物館)、伊東信宏(大阪大学大学院人文学研究科)、渡辺浩司(大阪大学大学院人文学研究科)、橋爪節也(大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院人文学研究科)、岡田裕成(大阪大学大学院人文学研究科)、高安啓介(大阪大学大学院人文学研究科)、古後奈緒子(大阪大学大学院人文学研究科)、鈴木聖子(大阪大学大学院人文学研究科)、伊藤謙(大阪大学総合学術博物館)、横田洋(大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院人文学研究科)、山崎達哉(大阪大学大学院人文学研究科)ほか
 本事業の理念を共有し、各プログラムの趣旨やねらいの下で各活動に受講生と事業担当者がどう関わるかを確認します。

アート・リング ～アートのエコシステムへのいざない～ The Art Ring – Invitation to the Ecosystem of Art –

開催日：2022年11月26日(土)
 場所：オンライン
 講師：伊藤謙(大阪大学総合学術博物館)ほか
 アーティスト・サイエンティストたちが産み出す『アート』は、教育・社会そして経済とつながり、次世代の文化の創生へと帰結します。このエコシステムは、アートが誕生してから、絶え間なく続いてきました。本講座では、「アート・リング」と呼び、「リング＝輪」各所におられる方との交流を通し、次世代の文化創生について考えます。そして、アート・リングを世界的に展開する有識者を招聘し、世界の潮流にも迫ります。昨年に続き、アートの世界に革新をもたらしつつあるデジタルアートに焦点をあて、「サイエンス×アート」の文理融合の視点、“産官学”の分野横断的視点、日本の歴史文化を悠久の時間の中で保全してきた“寺院”の視点、から掘り下げます。



© al+ Inc.

クロージング・シンポジウム

開催日：2023年3月4日(土)
 場所：大阪大学豊中キャンパス
 講師：永田靖(大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学総合学術博物館)、伊東信宏(大阪大学大学院人文学研究科)、渡辺浩司(大阪大学大学院人文学研究科)、橋爪節也(大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院人文学研究科)、岡田裕成(大阪大学大学院人文学研究科)、高安啓介(大阪大学大学院人文学研究科)、古後奈緒子(大阪大学大学院人文学研究科)、鈴木聖子(大阪大学大学院人文学研究科)、伊藤謙(大阪大学総合学術博物館)、横田洋(大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院人文学研究科)、山崎達哉(大阪大学大学院人文学研究科)ほか
 1年間の企画運営の成果や問題点を明らかにし、ディスカッションで本プログラムの目的と結果を検証することで、今後の同種の事業の内容を豊かにします。

場所のナラティブ

都市のアルケオロジー

開催日：2022年7月31日(日)、8月6日(土)、8月20日(土)、9月3日(土)、9月10日(土)、10月5日(木)～7日(金)、10月8日(土)
 場所：大阪大学豊中キャンパス、吹田市文化会館 メイシアター、乗船ツアー
 講師：林慎一郎(極東退屈道場)、永田靖(大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学総合学術博物館)、橋爪節也(大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院人文学研究科)、山崎達哉(大阪大学大学院人文学研究科)ほか
 私たちは常に「場所」に縛られています。故郷や住所登録、属する自治体、職場や国家などから私たちは逃れることができません。しかしその「場所」に暮らすことで、その「場所」の中や、あるいは外から、綻びが生まれたり、異物が闖入して、その場所は揺らぎを起こします。そこにナラティブ(物語)が生まれるのでしょうか。ここでは、かつて堂島に存在した「堂島米会所」を主たる題材にします。ここは現物取引だけでなく、先物取引の発祥の地でもあり、それは大阪商人が生み出した知恵でもあります。この堂島米会所をテーマに、演劇ユニット「極東退屈道場」の主催者・演出家の林慎一郎とともに、リサーチとワークショップ、また水上遊覧を組み合わせ、またリサーチ型パフォーマンスの上演を行うことで、過去の中の島から未来の大阪を予測していきます。



中之島界隈



林慎一郎

臨床のアート

walking practice 同じ景色をみよう

開催日：2022年11月6日(日) or 13日(日)(調整中)、11月27日(日)、12月4日(日)、12月17日(土)、2023年1月30日(月)～3月4日(土)ほか
 場所：大阪大学豊中キャンパス、大阪大学総合学術博物館、大阪城公園ほか
 講師：楡皮一彦(美術家)、山崎達哉(大阪大学大学院人文学研究科)ほか

現代美術家の楡皮一彦が実践しているワークショップ、“walking practice”を通して、現代社会におけるさまざまな問題について考えるきっかけとします。walking practice(歩く練習)では、各施設において、身体障害者が通常通ることになっている通路ではなく、健常者が通ることになっている通路を、参加者が車椅子を運びながら、両者が同じ道をたどることでみんなが全く同じ経路で施設を巡ることを目的としています。ワークショップの過程では、お互いの協力やコミュニケーションが必要となります。便利な道具や機械、技術等のみに頼らない、人と人の関係性によって日常が暮らせる方法を考えます。“walking practice”ワークショップの体験や、対話・講演を通して、アートがなしえる可能性を考えます。それらの成果を展覧会によって発信し、本プログラムの成果を検討します。



リサーチ・フレーム

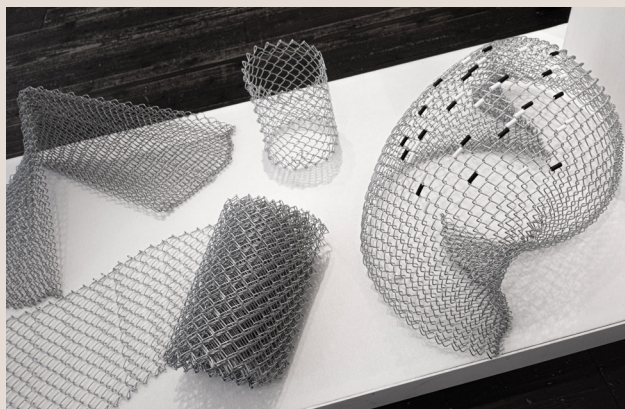
リサーチ・フレームは、「場所のナラティブ」「アートとその分身」「臨床のアート」「日常のポイエティック」の4つで構成されます。リサーチ・フレームでは、「レクチャー」「リサーチ」「ワークショップ」「クリエーション」の4つのステップを複合的に交差させたプログラムを提供します。

日常のポイエティック

町工場アートの可能性を探る

開催日：2022年7月～2023年2月
 場所：大阪大学豊中キャンパスほか
 講師：高安啓介(大阪大学大学院人文学研究科)、山崎達哉(大阪大学大学院人文学研究科)ほか

大阪の町工場の技術力の高さはつとに知られるところですが、本プロジェクトでは町工場の仕事をアートの力によって再発見したいと思います。東大阪の町工場の特徴は、第一に、金属加工を中心に高い技術を持っていること、第二に、工場ごとに他では真似できない自慢の技術があること、第三に、製品になるまえの部品をつかう場合が多いことにあります。ハイテクを下支えする仕事はなかなか注目されにくいですが、芸術を気取らない物たちは、驚嘆すべき技術のためのものであり、半端ない魅力を放っています。そこで、町工場のかかえる問題を聞き取り、今一度その仕事の魅力を掘り起こして、町工場から生み出される産物のあらたな活用のしかたや、面白い見せかたや、問題の解決のためにアートができることを考えて、提案をおこないます。



※プログラムの日程・内容については変更、オンライン実施、もしくは中止になる可能性があります。